

※雨天時の主会場は、町民体育館

# 郷土の英傑 鮭延秀綱物語

7

## 七 鮭延城攻め(真室合戦)の遺産

天正十三(一五八五)年、最上義光は鮭延城を攻めた。この遺産が幾年もの風雪に耐え城址近くに眠っている。近江沢の北側に合戦の犠牲者を葬ったといわれる看経森と延沢能登守の陣場。少し離れて火葬場の裏山に氏家尾張守の陣場と本陣跡など広大な地域に及んでいる。「鮭延城記」には次のように書かれている。

(看経森) 近江沢北方に一大丘あって、ここを看経森という。最上氏の鮭延城攻めの際、最上・鮭延両家の討死者を合葬した墳墓で、鮭延秀綱在城中は毎年彼岸会を開催した。

(陣場) 天正の役、最上氏が鮭延城を攻めた時築いた陣所で、西隅に大將氏家尾張守の陣があった。東南に数十間の土手を廻らして、長圍の陣形が現在でも現然と跡を残している。看経森付近にも三十余間の土塁が残っている。

この陣場には中世山城の様相が如実に施され、虎口、土塁、堀切、曲輪などが現然とした姿で今に跡を止めている。山形中世城郭研究の草分けである保角里志氏(現放送大学事務長)は陣場を陣城と呼び、館跡が数多く存在する山形県



保角里志氏の陣城(陣場)調査図

内では、真室川町にだけ残っていると述べている。

義光軍は鮭延軍の数倍の勢力であるのに、なぜこれ程広大な陣場を作ったのか。秀綱が世話になった庄内の武藤義氏が滅んだとはいえ、弟の丸岡兵庫が鮭延へ加勢する危険を感じたからであろう。

また城址大手門口近く、廿六夜塔の側に、井上將監(秀綱の弟綱知の義父、鮭川村岩木)の戦没碑が建立されている。綱知の子供は最上改易後、秀綱と千葉貞佐倉市に行くが、その末裔は江戸に出て医者となり鮭延姓を名乗った。(真室川町歴史研究会)

## 表紙の紹介

### 安楽城保育所お別れ会

3月14日(金)、安楽城保育所(所長・佐藤由美子 児童数41名)でお別れ会が行われました。年長組対年中・年少組でドッチボールをしたり、年中・年少さんから年長組さんへの劇や歌、手作りのペン立てなどのプレゼントがあったりと、楽しい一日を過ごしました。年長組の子ども達は一輪車が得意。プレゼントのお返しに、フラフープを使つての「5人まわし」(写真)を全員で披露しました。

